

# 特定非営利活動法人日本地質汚染審査機構 定款

## 第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人日本地質汚染審査機構という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を千葉県千葉市に置く。

## 第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、不特定多数の住民及び団体などに対して、社会的中立性と理科学的立場において、地質汚染の調査と浄化に関する指導と助言などを行い、主に売買対象とする土地の良好な地質環境と安全性を確保し、地域の環境保全と住民の健康を守り、快適で安全な街づくりに寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) まちづくりの推進を図る活動
- (2) 環境の保全を図る活動
- (3) 地域安全活動
- (4) 国際協力の活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係わる事業を行う。

- ① 地質汚染に関する調査及び浄化技術の評価診断事業
- ② 地質汚染に関する調査及び浄化の研究開発事業
- ③ 地質災害や地震災害に伴う地質汚染の調査解析事業
- ④ 地質環境保全に関する広報相談事業
- ⑤ 地質環境保全に関する情報収集事業
- ⑥ 地質環境保全に関する研修教育事業
- ⑦ 地質汚染単元調査法可能指定機関に関する認証事業
- ⑧ 汚染地下水の浄化と地下水資源の有効利用事業
- ⑨ 地質汚染診断士に関する資格認証事業
- ⑩ 地層液流動化診断士に関する資格認証事業
- ⑪ 宅地の地盤沈下阻止地下水利用診断士に関する資格認証事業
- ⑫ 宅地の津波減災診断士に関する資格認証事業
- ⑬ 宅地の活断層減災診断士に関する資格認証事業
- ⑭ 宅地の地すべり・土砂災害・水害減災診断士に関する資格認証事業
- ⑮ 放射性物質地質汚染診断士に関する資格認証事業
- ⑯ 宅地の火山災害減災診断士に関する資格認証事業
- ⑰ 総合宅地理学診断師に関する資格認証事業
- ⑱ 各地質環境に関する調査・診断及び浄化・減災技術の国際協力事業
- ⑲ その他目的を達成するために必要な事業

### 第3章 会員

#### (種別)

第6条 この法人の会員は次の6種とし、贊助会員以外の会員をもって特定非営利活動促進法(以下「法」という。)上の社員とする。

- (1) 一般会員 この法人の目的に賛同して入会した個人
- (2) 専門会員 この法人の事業に関して研究実績がある個人
- (3) 贊助会員 この法人の事業を贊助するために入会した個人又は団体
- (4) 名誉会員 この法人に功労のあった者で、理事会において推薦された個人
- (5) 一般海外会員 一般会員の内、海外に在住するもの
- (6) 専門海外会員 専門会員の内、海外に在住するもの

#### (入会)

第7条 一般会員の入会については、特に条件を定めない。

2 一般会員として入会しようとする者は、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

3 理事長は、前項の者の入会を認めない時は、速やかに、理由を付した書面をもって、本人にその旨を通知しなければならない。

4 専門会員は、この法人の事業に関して研究実績がある一般会員に対して、理事会の推薦にもとづく総会の決定と、本人の承認をもって会員となる。

5 名誉会員は、理事会の推薦にもとづく総会の決定と、本人の承認をもって会員となる。

6 贊助会員として入会しようとする個人・団体は、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

#### (入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

2 会費は原則として当該事業年度の開始前に納入するものとする。

3 事業年度の途中で入会する場合も会費全額を納入しなければならない。

#### (会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 本人が退会届の提出をしたとき。
- (2) 団体の解散又は個人の死亡。
- (3) 繼続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

#### (退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

#### (除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するに至った時は、総会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款または規則に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

#### (拠出金品の不返還)

第12条 既に納入した入会金、会費は返還しない。

## 第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3名以上18名以下
- (2) 監事 2名

2 理事のうち、1名を理事長とし、2名以内の副理事長をおく。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。

3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

4 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

3 理事は、理事会の構成員として、法令・定款及び総会の議決にもとづき、この法人の業務を執行する。

4 監事は、次に掲げる業務を行う。

(1) 理事の業務執行の状況を監査すること。

(2) この法人の財産の状況を監査すること。

(3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法

令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。

(4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員の任期は、役員就任の日から2年又は翌々年の総会が終結するまでの期間のいずれか短い期間とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の規定にかかわらず、後任の役員が選任されていない場合は、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。

3 補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決する前に弁明の機会を

与えなければならない。

- (1) 職務の遂行に堪えない状況にあると認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。  
(報酬等)

第19条 役員はその総数の3分の1以下の範囲で報酬を受けることができる。  
2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。  
3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(職員)

第20条 この法人に、事務局長その他の職員を置く。  
2 職員は、理事長が任免する。

## 第5章 総会

(種別)

第21条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第22条 総会は、一般会員、専門会員、名誉会員をもって構成する。  
2 全会員は、総会に出席し自由に意見を述べることができる。  
3 賛助会員は議決権を有しない。

(権能)

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び決算
- (6) 役員の選任又は解任、職務及び報酬
- (7) 入会金及び会費の額
- (8) 借入金(その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第50条において同じ。)その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (9) その他運営に関する重要事項

(開催)

第24条 通常総会は、毎年1回開催する。  
2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。  
(1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。  
(2) 賛助会員以外の会員総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。  
(3) 第15条第4項第4号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第25条 総会は、前条第2項第3号の場合を除き、理事長が招集する。  
2 理事長は、前条第2項第2号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から60日以内に臨時総会を招集しなければならない。  
3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面若しくは電磁的方法をもって、少なくとも開催日の5日前までに通知しなければならない。

(議長)

第26条 総会の議長は、その総会において、出席した賛助会員以外の会員の中から選出

する。

(定足数)

第27条 総会は、贊助会員以外の会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第28条 総会における決議事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に別に定めるもののほか、出席した贊助会員以外の会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第29条 贊助会員以外の各会員の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため会議に出席できない贊助会員以外の会員は、あらかじめ通知された事項について書面若しくは電磁的方法をもって表決し、又は他の贊助会員以外の会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した贊助会員以外の会員は、前2条、次条第1項及び第51条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する贊助会員以外の会員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 贊助会員以外の会員総数及び出席者数(書面若しくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。)

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名、又は記名、押印した上、この議事録をこの法人の事務所において5年間据え置く。

## 第6章 理事会

(構成)

第31条 理事会は、理事をもって構成する。

(権能)

第32条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

(1) 総会に付議すべき事項

(2) 総会の議決した事項の執行に関する事項

(3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第33条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

(1) 理事長が必要と認めたとき。

(2) 理事総数の5分の2以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

(3) 第15条第4項第5号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第34条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に理事会を招集しなければならない。

3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面またはファックス、電子メールをもって、少なくとも開会日の1週間前までに招集通知を発信して行わなければならない。ただし、議事が緊急を要する場合において、理事長が必要を認めて招集するときは、この限りではない。

(議長)

第35条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(議決)

第36条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(表決権等)

第37条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面若しくは電磁的方法をもって表決することができる。

3 前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第38条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名(書面若しくは電磁的方法による表決者にあっては、その旨を付記すること。)

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名、又は記名、押印しなければならない。

## 第7章 資産及び会計

(資産の構成)

第39条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

(1) 設立当初の財産目録に記載された資産

(2) 入会金及び会費

(3) 寄付金品

(4) 財産から生じる収益

(5) 事業に伴う収益

(6) その他の収益

(資産の区分)

第40条 (削除)

(資産の管理)

第41条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第42条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(会計の区分)

第43条 (削除)

(事業計画及び予算)

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予備費の設定及び使用)

第46条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算の中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(予算の追加及び更正)

第47条 予算作成後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第48条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上余剰金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第49条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(臨機の措置)

第50条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借り入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

## 第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第51条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した賛助会員以外の会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する事項を変更する場合、所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第52条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 社員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続きの開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

- 2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、賛助会員以外の会員総数の過半数の(可否同数のときは議長の決するところによる)承諾を得なければならない。
- 3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。
- 4 法人が解散(破産手続き開始の決定による解散を除く。)するときは総会において、清算人を選任する。又は、選任しない場合は理事が清算人となる。

(残余財産の帰属)

第53条 この法人が解散(合併又は破産手続きの開始の決定による解散を除く。)したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、総会で議決したものに譲渡するものとする。

(合併)

第54条 この法人が合併しようとするときは、総会において賛助会員以外の会員総数の過半数の(可否同数のときは議長の決するところによる)議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

## 第9章 公告の方法

(公告の方法)

第55条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに官報に掲載して行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人のホームページに掲載して行う。

## 第10章 雜則

(細則)

第56条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

## 付則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げるものとする。

理事長 榆井 久  
副理事長 鈴木 喜計  
理事 湊 秀雄  
同 藤井 昭二  
同 上砂 正一  
同 市原 實  
同 田結庄 良昭  
同 藤崎 克博  
同 桐山 良賢  
同 秋山 泉  
監事 楠田 隆  
同 大岡 健三

3 この法人の設立当初の役員の任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、成立の日から平成13年6月30日までとする。

4 この法人の設立当初の事業計画及び収支予算は、第44条の規定にかかわらず、設

立総会の定めるところによるものとする。

5 この法人の設立当初の事業年度は、第49条の規定にかかわらず、成立の日から平成13年3月31日までとする。

6 この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

|          |     |    |        |                |
|----------|-----|----|--------|----------------|
| (1) 一般会員 | 入会金 | 0円 | 年会費    | 3, 000円        |
| (2) 専門会員 | 入会金 | 0円 | 年会費    | 5, 000円        |
| (3) 賛助会員 | 入会金 | 0円 | 年会費 一口 | 50, 000円(2口以上) |
| (4) 特別会員 | 入会金 | 0円 | 年会費    | 0円             |

7 この法人の名誉会員は、年会費0円とする。

これは当法人の現行定款に相違ありません

令和7年12月11日  
特定非営利活動法人日本地質汚染審査機構  
理事長 高嶋 洋